

## 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 生野屋苑		
所在地	下松市生野屋南3-2-13		
電話番号	0833-45-0304	事業所番号	3590700013
法人名	株式会社 八葉会		

訪問調査日	平成 20 年 1 月 18 日	評価確定日	平成 20 年 5 月 9 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

### 【情報提供票より】

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人 非常勤 3 人 (常勤換算 6.5 人)	

#### (2) 建物概要

建物構造	木造 プレハブ式 造り	
	1 階建ての	1 ~ 階部分

#### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 30,000 円	敷金	無	円
保証金	有 100,000 円	償却の有無	無	
食費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
その他の費用	月額	15,000 円		
	内訳	光熱水費(9,000円) 共益費(6,000円)		

#### (4) 利用者の概要 (1月18日現在)

利用者数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
	要介護 1	4	要介護 4
	要介護 2	2	要介護 5
	要介護 3	3	要支援 2
年齢	平均 85 歳	最低 73 歳	最高 96 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 花岡医院 歯科 ときえだ歯科クリニック
---------	---------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴(優れている点、特徴的な取組)】

<p><b>(優れている点)</b> 高台にあるホームのリビングの窓は広く大きなガラス張り、四季の移り変わりや近くの国道の車の流れや、新幹線の通過が見えたり、近所の人々の往来や、外を飛ぶ鳥を眺められるなど、開放感にあふれ、利用者が思い出を話すきっかけになったり、穏かに日々を過ごせることにつながっているようです。散歩で青空市場やスーパーでの買い物、月2、3回は交流センターに行き1日を過ごしたり、畑づくり等日常的な外出支援をされていました。</p> <p><b>(特徴的な取組み等)</b> ホームには広い畑があり、利用者に作物の種蒔き、植付けの時期や方法を聞きながら季節ごとの野菜づくりに取り組まれています。利用者と職員と一緒に草を取ったり、野菜の成長や収穫を楽しみ、収穫した野菜はデイサービスセンターで調理されるホームの食事の食材として使われており、食事のときの話題づくりにもなり、利用者の張り合いや気晴らしの支援になっています。</p>
---

### 【重点項目への取組状況】

<p><b>(前回の評価結果に対するその後の取組状況)</b> 評価の結果をミーティングで話し合い、日中は玄関に鍵をかけないケアに取り組まれています。</p> <p><b>(今回の自己評価の取組状況)</b> 自己評価表を全職員に配布されていますが、期間が短く話し合われる機会がなく管理者と計画作成者と評価を実施し作成されています。</p> <p><b>(運営推進会議の取組状況)</b> 自治会長、婦人会長、他グループホーム職員、市地域包括支援センター看護師、利用者、家族の参加のもと開設後3回開催し、ホームの状況報告、参加者からの質問に答えるなどされています。</p> <p><b>(家族との連携状況)</b> 家族の来訪時に近況報告をし、預かり金の明細を確認をしてもらったり、また、担当職員が日々の様子、体調の変化等を記して毎月請求書と一緒に送付しておられます。家族からの意見や不満を聞くために訪問時に声かけしたり、電話で尋ねるなど連携しておられます。</p> <p><b>(地域との連携状況)</b> 自治会に加入し、地域行事(どんど焼き、夏祭り、盆祭り、彼岸花祭り)や、幼稚園、小学校の運動会に参加したり、ホームの夏祭りに地域の人の参加があるなど、地域の人々との交流をされています。</p>
--

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	三つの柱(人権保護、一人ひとりの個性を大切に、家族・地域との交流)を理念としている。開設時(前法人平成13年)に作られたものであり地域密着型としての理念については話し合う機会がなく作り直していない。	・地域密着型サービス理念の話し合いと作成
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を玄関に掲示し、職員全員が理念を記したカードを携帯しているが、確認をすることなく、意識もしていない。日常のケアの中につなげるような取り組みはしていない。	・理念の確認 ・実践に向けての取り組み
2. 地域との支えあい			
3 (7)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し、地域の行事(どんど焼き、夏祭り、盆踊り、彼岸花祭り)、幼稚園、小学校の運動会に参加したり、ホームの夏祭りに地域の人々が来たり、また、職員が年2回の草刈作業や総会に参加している。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価表を全職員に配布したが、話し合う機会がなく管理者と計画作成者だけで評価、作成した。評価の意義や外部評価の改善点についてはミーティング等で話し合い、日中は鍵をかけないよう改善に取り組んでいる。	・全職員での自己評価の実施
5 (10)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	自治会長、婦人会長、他グループホーム職員、市包括支援センター看護師、利用者、家族の参加のもと、開設後3回開催している。ホームの状況報告や参加者からの質問に答えている。	・2ヵ月に1回の定期的開催の実施
6 (11)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	担当部署との連携はとれている。電話等で相談している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族の来訪時(支払いのため月1回は必ず訪問がある)に近況報告、預かり金明細の確認をしてもらうなど、また、担当職員が日々の様子、体調の変化等を記して請求書を一緒に送付している。電話でも報告するなど密に連絡をとっている。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族の来訪時に声かけしたり、電話等で意見や不満、苦情を言い出しやすいようにしている。苦情相談窓口、担当者、外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。第三者委員は選任していない。	・第三者委員の選任
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤6名、非常勤3名を確保し、利用者の状況に合わせた勤務体制である。急な休みの時はフリーの管理者や職員間の勤務交代で対応するなど勤務の調整をしている。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職者はあるが、利用者に説明し、一週間程度引継ぎの期間を置き、利用者への影響に配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は勤務の一環として提供している。新任研修や他グループホームでの現場研修(早出、遅出、日勤の体験)を実施し、ミーティング等で学び、職員を育てる取り組みをしている。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	県宅老所・グループホーム連絡会、市の連絡会の勉強会や交流会に参加している。他のグループホーム(1施設)と運動会、もちつき、お月見、音楽会などで交流している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に本人と家族にホーム内の見学やお茶を飲んでもらったり、泊まりを体験してもらうなどし、馴染めるようにしている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>洗濯物の干し方や絵の描き方を教わったり、おやつ作り、掃除、下膳、洗濯物たたみなど利用者と職員が話し合いながらお互いが協働して出来るような関係づくりをしている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の関わりの中で、本人の声を聞いたり、家族の来訪時に本人についての情報を得るなど思いや意向の把握に努めている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>月に1回ケアカンファレンスを開催し、利用者に関わる課題を話し合っている。家族からは訪問時に意見を聞き、利用者からは日々の関わりの中から聞きとり、職員の意見やアイデアを反映しながら本人本位の介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>1ヵ月間の様子から見直しのためのアセスメントをし、3ヵ月毎に見直ししている。状態の変化に応じて随時見直しもし、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>受診の送迎と付き添い、自宅に寄ってお茶を飲んだり、馴染みの品物を持ってホームに帰れるよう支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望を聞きながら、かかりつけ医への送迎やつき添いの支援をしている。家族がつき添う場合は、本人の状況を記録し伝えている。協力医の往診も可能であり、適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期のあり方について口頭で家族に伝えている。事業所が対応できる指針は定めていない。本人、家族、かかりつけ医、職員全員で方針を共有していない。	・重度化や終末期に向けた方針の作成 ・方針の共有
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	理念の一つに「人権保護」をかがげ、人前で間違いや失敗を指摘したりせず、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないよう配慮している。記録等の個人情報の取扱いは全職員で注意している。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れはあるが、起床や朝食は自由で一人ひとりのペースを大切にその人らしい暮らしができるよう支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	昼食、夕食は併設のデイサービスセンターから食事提供を受けている。食事の準備は殆ど職員のみで行っているが、下膳や後片付けは、手伝う利用者もある。食事は利用者と職員も同じ物を食べながら思い出話をするなど楽しめるようにしている。おやつは利用者の好みを聞き、職員と一緒に作る機会をもうけている。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は毎日15時30分～17時まで可能であり、利用者の希望にあわせてゆっくり楽しめるよう支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	絵を画いたり、ぬり絵、テレビ、ビデオ、畑づくり、掃除、洗濯物たたみ等、一人ひとりの楽しみごとや、活躍できる場面をつくって支援している。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩で青空市場やスーパーの買い物に出かけたり、月に2、3回、車で交流センターで1日を過ごしたり、畑づくりなど外に出かけられるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	抑制や拘束のないケアに取り組み、身体拘束はしていない。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。利用者の外出をセンサーで察知したら、さりげなく声かけをし、自由に外に出られるように支援している。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリはっとの記録をミーティングで話し合い転倒などの事故防止に取り組んでいる。事故報告書は整備していない。	・事故報告書の整備
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署員による救急救命法の研修を全職員が受講している。日頃からの訓練や定期的な訓練は行っていない。	・日頃からや定期的な訓練の実施
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年1回消防避難訓練を実施している。ホームがハザードマップの指定地域になっており、自治会の話し合いに出席したり、地域の人と非難訓練を話し合うなど協力を得られるよう働きかけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報をファイルし、職員は何時でも確認できるようにしている。薬はその都度手渡しし、服用を確認している。必要な情報は、医師、看護師にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後口腔ケアの支援をしている。歯ブラシや義歯の清掃、消毒、保管についても利用者の状況に合わせて支援している。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量の記録をしている。法人からの配食であり栄養バランス、カロリーも把握している。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、手洗い、うがい、手すりの消毒など予防を実行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共有空間のリビングは、畳の間、円形の炬燵、広い窓からの眺め(車の流れ、行き交う人、飛ぶ鳥)や、利用者の作品、季節の花を飾り、利用者の居場所づくりを支援している。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	テレビ、机、椅子、タンス、仏壇等が持ち込まれている。受診の送迎時、利用者の自宅に立ち寄ることがあり、本人の好みの物を持参することもある。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム生野屋苑
所在地	下松市生野屋南3丁目2番13号
電話番号	(0833)45-0304
開設年月日	平成 19 年 2 月 1 日

## 【サービスの特徴】

- ・9人の少人数で家庭的な環境の共同生活を送ることができます。
- ・裏の菜園で種まきから収穫まで楽しめます。  
さつまいも掘りをし、外庭で、豚汁、おむすびをみんなで食します。
- ・散歩コースに恵まれています。  
徒歩～青空市場、スーパーでお買い物  
車(2～3分)～交流センター、恋路公園 等。

## 【実施ユニットの概要】 ( 12 月 31 日現在 )

ユニットの名称	1ユニット			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	8 名	男性 4 名	女性 4 名	
	要介護 1	3	要介護 4	
	要介護 2	3	要介護 5	
	要介護 3	2	要支援 2	
年齢構成	平均 85 歳	最低 72 歳	最高 96 歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	管理者、計画作成担当者、で記入。 V(98～110)は、スタッフ全員のまとめを記入。
評価確定日	平成 20 年 1 月 18 日

# 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	三つの柱を、掲げている。 特に「家族・地域との交流」は、改善、実行しつつある。	家庭的な環境の中、地域住民との交流を今以上に持ち、安心して暮らせる様、スタッフ一同で考えたい。
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関内(入口)に、理念を掲示している。	理念の確認が薄いように思うので、ミーティング等で毎回確認する必要がある。
3	<b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	スタッフ全員、理念カードを携帯している。	スタッフ各自が勤務時(業務日誌を見る際)理念を確認する。
4	<b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえ、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	計画作成担当者を中心に、ケアプラン会議をスタッフと共に行っている。	運営者にも、参加して頂ける様に、時間を検討する。
5	<b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域の行事に積極的に参加している。	行事に参加するだけでなく、苑に来て頂ける様、催し等設け、生活を理解して頂く。家族会を設け、共に理解を深める。
2. 地域との支えあい			
6	<b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。	近所、隣の畑に来られる方々と散歩の機会にお話が出来たり、たまにお花、野菜を頂く事もある。	「お茶を飲みに来て下さい」と声をかけているが、なかなか訪問はして頂いてないので、推進委員会等で相談して行きたい。
7 (3)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に入会し、盆踊り、彼岸花祭に参加している。花岡小学校、四恩幼稚園の運動会を観に行く他、地域の祭り、ふれあい広場にも出かけている。	老人クラブ、小学生、幼稚園児との交流も考えたい。
8	<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		自治会長さん、民生委員さんと話し合い、役立つことがあれば、取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の結果は、ミーティングで報告し、いつでも確認出来るようファイルしている。改善面は、話し合い改善し、実行している。	自己評価所はスタッフにも考えてもらうよう、配布しているが、話し合う機会を設け、外部評価の意義を自覚、理解していく。
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	現取り組み状況を報告、相談をし、意見を聞き、ミーティングで話し合い、改善している。利用者の生活を現場で見たりしている。	2ヶ月に1度、会議を設けていたが、管理者交替等で9月より休止になっているため、2月より再開していく。
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	書類提出時等、介護保険課、包括の職員さんと雑談的に話はしている。不明な点を電話で聞く事はある。	計画的に行政に足を向け、連携をとっていきたい。
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	グループホーム協議会、県社協の講演に、管理者、計画作成担当者が受講したことはある。	
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者、計画作成担当者が学ぶ機会はあるが、スタッフの受講はしていない。	今後、学ぶ機会があれば、職員に受講してもらい、ミーティングで話し合いを設ける。
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書に添って説明し、家族に納得してもらい、契約書、同意書に捺印をお願いしている。	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者との会話の中での不満等は、その場で説明し、納得はして頂いている。	
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月の簡単な近況報告はしている。金銭管理は個人別の出納簿をつくり、家族の来訪時に確認してもらっている。体調不良の利用者には、家族に電話で現状協を報告している。	今年より年4回の家族向けのホーム便りを発行する計画をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 <b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	玄関入り口に自己点検表、外部評価結果等はファイルして設置している。		
18 (8) <b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	来訪時の際に言ってもらう様には問いかけているが、なかなか意見等言って頂けない。窓口意見箱は設置している。		
19 <b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	勤務時間の見直しや、業務体制等、ミーティングで話し合っている。		
20 (9) <b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤、パート職員で4交替の対応をしている。欠勤のスタッフや利用者体調不良のある場合、管理者、休日のスタッフで調整している。		常勤者で4交替の勤務に就き、パートスタッフで補佐し、非常時に管理者で対応出来るようにする。
21 (10) <b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職の職員に関しては、利用者理由を説明している。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) <b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員に応じた研修に参加している。他グループホームへの体験学習(研修)を実施し、ミーティングで話し合い勉強している。		
23 <b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	若い世代、経験豊かな中年代、若い男性を配置し、利用者に対応している。		
24 (12) <b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市の連絡会、県協議会に参加・県協議会の研修にスタッフ1名交替で参加している。他グループホーム(1施設)と運動会、もちつき、お月見ボランティアの音楽会等連絡し合い交流している。		市の全グループホーム(5施設)が集う機会を持ちたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		運営者は、現場の内情を管理者から報告は受けているが実際に現場に出向き、実態を把握してほしい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		隣のデイサービスを利用されたり、苑を何度も訪問して頂き、他利用者、スタッフと馴染んで頂く工夫を、市、推進委員の方々と相談していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		デイサービスと共有の厨房で、調理する事はないが、もやしの芽きり等の手作業を手伝ったり配膳を手伝って頂く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者と家庭的に関わりを持ち、共に生活している思いで支援している。		入居者の思いを聴き、出きるだけ本人の希望の支援ができる様、スタッフ、家族と話し合う。
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族に苑の訪問、寸時の外出等、お願いはしている。年2回の食事会を設けている。		家族の方と話し合い、本人も家族もお互いどのように係わりを持つべきか聞いて支援する。
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人、場所(美容院、スーパー等)に接する事が出来る様、家族に協力をお願いしている。		入所当初は、家族の協力もあるが、徐々に本人と遠のいてしまうので家族会等でも話し合い、協力して頂く。
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士話し合える様、リビングに集う事を心掛けているが、食事、おやつを済ますと、すぐ帰室してしまう入居者もいる。		一人ひとり孤立しないよう、その人にあった趣味、興味のわく事を他利用者と共に行う。
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他施設に行かれた利用者の方を訪問したり、苑に遊びに来て頂いたりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で、それぞれのスタッフが本人の思いを把握するよう努めている。月1回のミーティング(ケアカンファレンスを含む)や、計画再立案時のケアカンファレンスで意見を出してもらい、計画作成者が、それをまとめて、ケアプランとしてみんなに周知徹底をはかっている。		スタッフは、まだ日常業務をこなしていくのが一生懸命で目的を持ったかかわりがまだ不十分なので今後さらに充実していきたい。
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時、在宅ケアマネジャー等から、できるだけ情報を提供してもらおう。又、家族に1~2時間面接し、センター方式シートパックをうめていくようにしている。		センター方式シートパックを利用し始めたばかりで情報把握が不十分である。不十分な部分は面会時等に聞くことにする。
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々のかかわりの中で、それぞれのスタッフが把握し、ケアカンファレンス等で検討するように努めている。		1日1日、本人の状況が変化するので主目標は変わらないが、介護内容については、その日のスタッフが責任をもって介護するように心がける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人・家族との意見交換は、まだ十分でない。	必要時、電話連絡したり、面会日に積極的に意見を聞くようにしたいと思う。
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	病気・ケガ等で体調変化した時や、入・退院時等、家族と話し合いをし(面会等で)、出来るだけ、家族・本人の思いを大切にしたい計画の再立案をしたいと思う。	
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録に関しては、「外部評価項目の参考例」の介護記録を参考にした記録を目指している。	日々の記録やスタッフの対応で利用者の様子がわかり、今後のケアへの参考にしたいと思っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		・医療機関の強化 24時間の医療体制を考える。 ・隣のデイサービスと一緒にボランティアに
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防は、避難訓練、救急法講習は、定期的に行っている。	民生委員の方、文化・教育機関等の協力を仰ぎ連携をとって行きたい。
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	研修(防府医療専門学校)の受け入れ、久保中学校の実習体験の受け入れがある。	研修の受け入れをもっと増やしたり、近所の方に気軽に遊びに来て頂く様努力する。
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		事業所の専門医が未決定で、今後きちんと家族と相談しながら決めていきたい。
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	無意識に本人を傷つけている対応をしているかもしれない。	ミーティング、ケアプラン会議などで、本人にとっての不利益は、何かを検討する必要がある。
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	スタッフの思いの行動が多い中、外出等、説明し、希望に添って支援をすることもある。	利用者本人の要望を多く聞けるよう、利用者に関わりかけ、説明を心掛けていく。
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	洗濯、掃除、衣類の整理等、できる利用者さんはスタッフと共に行なっている。買い物も散歩方々行くこともある。	
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	1日の業務体制は決めているが、利用者の状態に依って変えて支援している。	一人ひとりのペースに応じて、何がやれるか、やれないか考え、支援することを検討する。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	出来るだけ行きつけの美容院に家族と共に行ってもらっているが、高齢のためや、家族の都合で行けない利用者は、ホームで美容師さんに切ってもらっている。	
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	利用者がえん下体操中にスタッフで配膳しているが、片付けは1名の利用者が手伝っている。食事はスタッフも利用者と同じ食事を同じ食卓で食べている。	利用者と共に配膳、下膳が出来るよう工夫していく。
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	苑内禁煙で、喫煙の希望はない。夕食時、チョコに一杯、お酒を飲まれる利用者さんが1名いる。	
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	排泄チェック表を見ながら誘導したり、排泄を促している。できるだけ布パンツで日常は過ごしてもらっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。		スタッフの勤務体制で、ねる前の入浴ができていないが、勤務のローテーションの工夫を検討してみる。
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		生活歴を考え、場面づくりをしても、それが重荷にならないよう、強制しないような支援を検討する。
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		家族の協力があれば、日帰り旅行が計画可能ではないか、と考える。
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		年賀状を絵手紙的にして出すよう支援したい。
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		寝具を揃えているので対応は出来る。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	8月の地域交流夏祭りと12月の食事会の年2回取り入れている。ほとんどの家族の参加がある。	
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	ケアプランの内容に拘束しないケアを入れ込んでいる。	拘束の内容をスタッフ全員で今一度理解していく。
75 (28)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中鍵をかけておらず、外に出られる利用者さんについては、スタッフ同伴にて一緒に外出(散歩)をして気を晴らしている。	
76	<b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中、リビングで過ごされる利用者さんは、見守りが出来るが、居室で過ごされる方は、時折、声かけをしている。夜間は巡視をして見守りをしている。	
77	<b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	スタッフの見守りの中、ハサミはよく使用する。	
78 (29)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ミーティング、ケアプラン会議で一人ひとりの状態、転倒防止の話し合いをしている。	ヒヤリはつとを活用していく。
79 (30)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署員に依る、応急手当、蘇生法の講義を受け学習している。	研修に基づき、常に想定訓練が必要。
80	<b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や“ヒヤリはつと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	臨時ミーティングを開き、検討したり、連絡帳で指示、実行をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		火災避難訓練はしているが、水害、地震の避難のマニュアルを作成し、訓練する必要がある。
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		プライバシーを守りつつ排便チェックをしているが、チェックがむづかしい利用者の方も居られる。
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		スタッフは、マニュアルを確認、実行。マスク、ゴム手袋着用、うがい、手洗い等で予防する。
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。		内部からは出口がわかりにくい工夫が必要。
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	リビングは大きい窓ガラスで、外景がよく見え、鳥が飛ぶのがよく見え楽しんでいる。	トイレの便座が高齢者には高さが高すぎるように思う。
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングに和室を設け、冬は電気こたつを設置し、足を伸ばしたり、横になったり出来る。	
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が使い慣れたタンス、椅子等、持ち込みが出来、自由にレイアウト出来る。	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室が留守の際は窓を開け、換気をしている。冷房、暖房は利用者一人ひとりの体質を把握し、こまめに作動している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	廊下には手摺があり、歩き易い。	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。		
97	<b>建物の外周リや空間の活用</b> 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外に、畑が作れる広さがあり、運動会、夏祭り等、外で出来る。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいの	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input checked="" type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある <input checked="" type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と <input checked="" type="checkbox"/> 家族の1 / 3 くらいと	<input checked="" type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="checkbox"/> ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> たまに	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="checkbox"/> 大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input checked="" type="checkbox"/> 職員の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input checked="" type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="checkbox"/> 家族等の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない